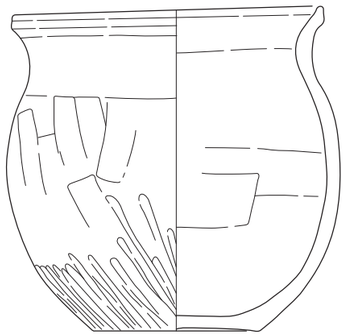
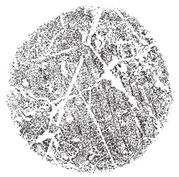
諏訪前遺跡

（第２地点）

― 産業廃棄物処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―





２０１４
水戸市教育委員会
平和建設株式会社

水戸市埋蔵文化財調査報告書　第64集
諏訪前遺跡（第２地点）
二〇一四
水戸市教育委員会

諏訪前遺跡

（第２地点）

― 産業廃棄物処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

２０１４

水戸市教育委員会
平和建設株式会社

ごあいさつ

水戸市は那珂川の流域に位置し，八溝山系の山並みと那珂川・千波湖の豊かな自然に囲まれています。私たちの祖先もこの豊かな環境のもと古くから生活を営んできました。

水戸市域の東部に位置する諏訪前遺跡は那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には，文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や６世紀後半に築造された首長墓群とみられる北屋敷古墳群，奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている梶内遺跡など，多くの重要遺跡が残されており，古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

埋蔵文化財は，開発等により一度破壊されてしまうと，二度と原状に復すことができないため，私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世へと伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては，その意義や重要性を踏まえ，開発事業との調和を図りながら，文化財の保護・保存に努めているところです。

この度の発掘調査は，諏訪前遺跡において実施した二度目の本格的な発掘調査で，古墳時代終末期から奈良時代初頭頃に営まれた竪穴建物跡等が検出されました。諏訪前遺跡の第１次調査でも７世紀末から８世紀初頭頃の竪穴建物跡が１軒確認されていることから，同時期の集落の空間的広がりを窺い知ることができる貴重な成果が得られました。

ここに刊行する本書が，豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へと繋がることを願い，学術研究等の資料として，広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら，今回の調査実施にあたり，多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方，並びに種々の御指導･御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げ，ごあいさつといたします。

平成 26 年９月

水戸市教育委員会

教育長　本　多　清　峰

例　言

1　本書は，水戸市に所在する諏訪前遺跡（第２地点）の発掘調査報告書である。

2　調査は産業廃棄物中間処理施設建設工事に伴い，平和建設株式会社の委託を受け，水戸市教育委員会指導のもと，株式会社東京航業研究所が実施した。

3　調査の概要は下記の通りである。

所在地　　水戸市大場町字小山 443 番地 7，大場町字諏訪前 452 番地 1

調査面積　　175.5㎡

調査担当　　岩崎岳彦（株式会社東京航業研究所　文化財調査課）

調査参加者　有田洋子，小山司農夫，河原井俊吉郎，皆川幸子

整理参加者　石割裕次郎，大川亜弓，菊池久美子，酒井成男，島田真紀子，富永義昭，
殿井貴代子，永田正博，野村果央，畠山真紀，平野由美子，村井建三

調査指導　　水戸市教育委員会（教育長　本多　清峰）

4　本書の執筆・編集は，岩崎岳彦・米川暢敬（水戸市埋蔵文化財センター）が行った。

5　調査組織は下記の通りである。

本多　清峰　水戸市教育委員会教育長

事務局

中里誠志郎　水戸市教育委員会事務局教育次長

飯村　博史　同文化課埋蔵文化財センター所長

渥美　賢吾　同文化財主事

米川　暢敬　同文化財主事

太田有里乃　同埋蔵文化財専門員

鈴木　　学　同埋蔵文化財専門員

昆　　志穂　同埋蔵文化財専門員

丸山優香里　同埋蔵文化財専門員

大谷　純奈　同嘱託員（公開活用担当）

山戸　祐子　同嘱託員（庶務担当）

6　発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々及び機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です。

茨城県教育庁文化課，平和建設株式会社

凡　例

1　本書に記している座標値は，世界測地系に基づく。挿図の内，平面図の方位記号は座標北を，土層堆積断面図の水準線高の数値は海抜標高をそれぞれ示す（単位：m）。

2　土層及び遺物の色調『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務所・㈶日本色彩研究所色票監修 2002 年版）に準拠する。

3　遺構平面図及び土層堆積断面図の縮尺は，1/30，1/40，1/60 を基本とし，各図にスケールを明示した。

4　遺物実測図の縮尺は 1/3 で掲載し，各図にスケールを明示した。

5　遺物写真の縮尺は実測図と同じである。

6　遺物番号は，実測図，観察表，写真図版とも共通である。

7　挿表中における括弧付き数字については，（　）内が推定値，〈　〉内が残存値・現存値を示す。

8　挿図中のスクリーントーンは以下に示す通りである。

遺構図　……焼土　……カマド

遺物図　……須恵器断面　……黒色物　……磨滅範囲

9　引用・参考文献は，一括して本文末に収めた。

目　次

ごあいさつ
例言・凡例・目次
第１章　調査に至る経緯と経過
　１－１　調査に至る経緯 …… 1
　１－２　発掘作業の経過 …… 1
　１－３　整理等作業の経過 …… 1
第２章　遺跡の周辺環境 …… 2
　２－１　地理的環境 …… 3
　２－２　歴史的環境 …… 3
　２－３　諏訪前遺跡における既住の調査 …… 6
第３章　調査の方法と成果 …… 7
　３－１　調査の方法 …… 7
　３－２　基本層序 …… 7
　３－３　遺構 …… 9
　３－４　遺物 …… 14
第４章　総括 …… 17
引用・参考文献 …… 17
写真図版
報告書抄録

挿図・表目次

第１図　諏訪前遺跡の位置 …… 3
第２図　諏訪前遺跡の範囲と周辺遺跡の位置 …… 4
第３図　諏訪前遺跡（第１地点）遺構配置図 …… 6
第４図　基本層序柱状図 …… 7
第５図　調査区の位置 …… 8
第６図　調査区方眼図 …… 9
第７図　１号竪穴建物跡 …… 10
第８図　１号竪穴建物跡貼床 …… 11
第９図　１号竪穴建物跡遺物出土状況 …… 11
第10図　１号竪穴建物跡カマド …… 12
第11図　ピット …… 13
第12図　出土遺物（１）…… 14
第13図　出土遺物（２）…… 15
第１表　諏訪前遺跡と周辺遺跡一覧 …… 5
第２表　出土遺物属性一覧 …… 16
第３表　遺物集計表 …… 16

図版目次

図版１　調査区全景（南より）
１号ピット完掘状況（東より）
２号ピット完掘状況（東より）
調査区を望む（南より）
図版２　１号竪穴建物跡完掘状況（南より）
１号竪穴建物跡遺物出土状況（１）（南より）
図版３　１号竪穴建物跡遺物出土状況（２）（南より）
１号竪穴建物跡遺物出土状況（３）（南より）
１号竪穴建物跡カマド完掘状況（南より）
１号竪穴建物跡土層断面（東より）
基本層序（東より）
基本層序（南より）
埋め戻し状況（南より）
作業風景（北より）
図版４　出土遺物

第１章　調査に至る経緯と経過

１－１　調査に至る経緯

平成 24 年５月 22 日付けで平和建設株式会社代表取締役　長谷川紀子（以下，事業者）から，水戸市教育委員会（以下，市教委）教育長あて，埋蔵文化財の取扱いについて照会文書が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地「諏訪前遺跡」内に該当しており，工事着手の 60 日前までに文化財保護法第 93 条第１項に基づく届出を茨城県教育委員会教育長あて提出する必要があること，通知提出後に県教育委員会教育長から埋蔵文化財の取扱いについて通知があること，遺跡の発掘調査や現状保存を必要とする場合には，原因者の協力をお願いする旨回答した（平成 24 年６月 19 日付け教埋第 401 号）。

その後，平成 24 年７月 10 日～ 11 日と９月５日～６日の期間に，開発対象地内において試掘・確認調査を実施した（第１次調査及び第２次調査）。第２次調査では埋蔵文化財は確認されなかったが，第１次調査では古墳時代から奈良時代のものと考えられる土師器・須恵器の砕片が検出された。調査結果に基づき，原因者と保存について協議を重ねたが，計画変更等は困難であることから，原因者から提出のあった文化財保護法第 93 条第１項に基づく届出に，記録保存を目的とした本発掘調査の実施が相当である旨，意見書を付して茨城県教育委員会（以下，県教委）教育長あて進達した（平成 26 年３月４日付け教埋第 172 号）。

この届出に対し，県教委教育長から工事着手前に発掘調査を実施すること，調査の結果，重要な遺構が確認された場合には，その保存について別途協議する旨の指示・勧告があった（平成 26 年３月７日付け文第 2761 号）。これを受けて、事業者は株式会社東京航業研究所（以下、「受託業者」という。）と発掘調査業務の委託契約を締結し、この契約に基づき、受託業者から平成 26 年４月９日日付けで法第 92 条第一項に規定する「埋蔵文化財発掘調査の届出」が提出された。本発掘調査はこの届に基づき、平成 26 年６月 10 日から平成 26 年６月 30 日まで、市教委の指導・助言の下、実施することとなった。

（米川）

１－２　発掘作業の経過

発掘調査は，平成 26 年６月 10 日から６月 30 日までの約３週間に渡って実施した。調査経過の概略は以下の通りである。

６月 10 日より重機を用いて表土除去作業及び遺構確認作業を開始した。調査区内は木根が多く確認作業は難航した。６月 13 日遺構確認作業を終了，第１号竪穴建物跡の調査に取り掛かる。６月 17 日，遺構確認面から 20㎝ほどの地点において覆土が硬化している面を確認。範囲が広範に渡ることから，これを床面として調査を進める。６月 17 日土層の観察を行った後，カマドの調査に移る。６月 25 日カマド内火床面を確認。現況床面 50㎝以上下面に存在することから，床面をさらに掘り下げる。６月 28 日，ロームが平坦に硬化した面を確認。床面と認定し，調査を継続する。６月 29 日，竪穴建物跡を完掘。掘り方の調査に移行。掘り方は浅く，竪穴建物の四隅がやや掘り込まれるのみであった。６月 30 日，市教育委員会の立ち合いの後，全ての調査を終了。埋め戻し作業を行い，機材の撤収をもって全ての調査を終了した。

（岩崎）

１－３　整理作業の経過

整理作業は，平成 26 年７月１日より平成 26 年８月 30 日に渡って実施した。７月１日より７月 17 日には遺物の洗浄，注記，接合作業および写真整理作業と並んで，写真測量した遺構の図化作業をＳＴＰ（デジタル図化解析機）を用いて行った。

７月 18 日より８月 20 日には遺構図面の修正・トレース，遺物の実測・トレース，遺物写真の撮影，図版作成，原稿執筆などの作業を行い，８月 21 日より９月 23 日にかけて報告書編集作業を実施した。

（岩崎）

第２章　遺跡の周辺環境

２－１　地理的環境

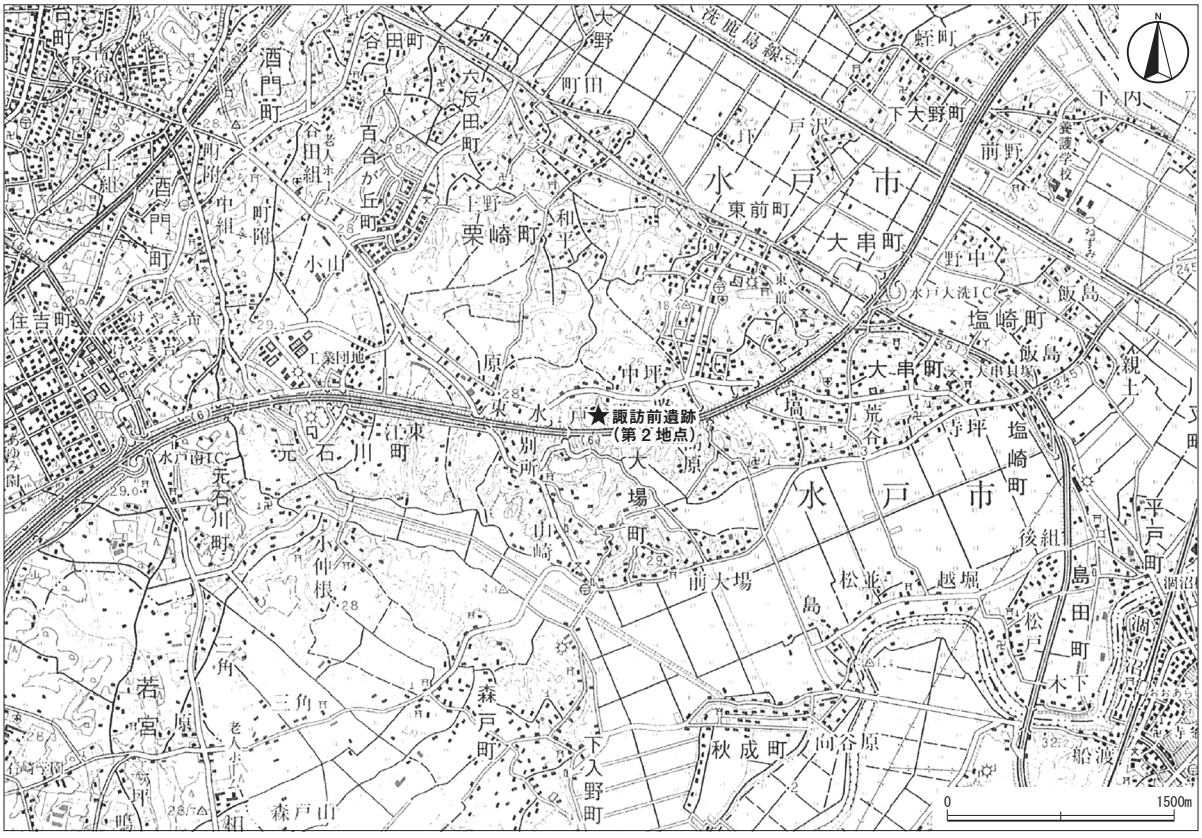
諏訪前遺跡第２地点は水戸市大場町字小山 443 番地７，大場町字諏訪前 452 番地１に位置する，縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代の複合遺跡である。遺跡は涸沼川に流れ込む支流の一つである石川川右岸に位置し「東茨城台地」と呼ばれる洪積台地上に位置する。諏訪前遺跡の東には，国指定史跡である大串貝塚と大串遺跡，北屋敷遺跡。北に上平遺跡，薄内遺跡，南西には元石川大谷原遺跡，小仲根遺跡など先土器時代から近世に至るまでの多数の遺跡が八つ手状の台地縁辺部に沿って分布し，水戸市内でも有数の遺跡密集地帯であり，諏訪前遺跡もその一角をなしている。当該地点南側には，現在，東水戸道路が横切っているものの，針葉樹の森に覆われた八つ手状の谷は古来の面影を色濃く残している。

２－２　歴史的環境

本節では諏訪前遺跡周辺の本調査地点出土遺物の時期にからめ概観する。

本調査地点からは田戸下層式と見られる縄文早期及び中期加曾利Ｅ式の土器片，７世紀後葉から８世紀前葉にかけての土師器，須恵器が出土した。

縄文早期としては，薬王院東遺跡の平成元年の調査で遺構外からではあるが田戸下層式土器が出土している。また大鋸町遺跡からは，撚糸文系の早期の土器が，町付遺跡からは沈線文系の土器が確認



第１図　諏訪前遺跡の位置（国土地理院発行１：50,000「ひたちなか・水戸・石岡・磯浜」に加筆）

第２図　諏訪前遺跡の範囲と周辺遺跡の位置

（国土地理院発行１：25,000「那珂湊・磯浜」に加筆　包蔵地は『元石川大谷原遺跡』を参照）

第１表　諏訪前遺跡と周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	所在地	時代・時期
001	谷田貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文（前）
002	谷田遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文（前～晩）・古墳（後）
003	塙坪遺跡	集落跡	酒門町塙坪	弥生（後）・奈良・平安
006	下畑遺跡	集落跡	元石川町下畑	縄文（中～後）・古墳（後）
056	元石川町権現台遺跡	集落跡	元石川町権現台	弥生・古墳
069	谷田古墳群	古墳群	酒門町付外	古墳
071	江東古墳群	古墳群	元石川町江東外	古墳
140	乗越沢遺跡	集落跡	元石川町乗越沢	縄文（後）・古墳
141	雁沢遺跡	集落跡	元石川町雁沢	縄文（中・後）・奈良・平安
143	中大野遺跡	集落跡	中大野町字堀之内	弥生（後）・古墳（前）
175	大串貝塚	貝塚	塩崎町 1015-2 外	縄文（前・後）
176	大串遺跡	集落跡／官衙跡／火葬墓	塩崎町 1016 外	縄文（草創・前・後）・古墳・奈良・平安
177	森戸遺跡	集落跡	森戸町塙	先土器
178	向山遺跡	集落跡	大串町向山	縄文（前）・古墳・奈良・平安
179	東前遺跡	集落跡	東前町道漢坂	縄文・古墳（前）
180	芳賀遺跡	集落跡	栗崎町宿	奈良・平安
181	六地蔵寺遺跡	集落跡	六反田町 818 外	弥生（後）・古墳（前）・奈良・平安
182	西谷津遺跡	集落跡	六反田町西谷津	古墳・奈良・平安
183	小原遺跡	集落跡	東前町原	弥生（後）・古墳・奈良・平安
184	新地遺跡	集落跡	六反田町新地	古墳（前～中）・奈良・平安
185	薄内遺跡	集落跡	六反田町薄内	先土器・縄文（早～後）・弥生（前～後）・古墳（前・後）・奈良・平安・近世
186	金山塚古墳群	古墳群	大串町原	古墳（後～終）
187	大串古墳群	古墳群	大串町山海 2251	古墳（後～終）
188	栗崎北古墳	古墳	栗崎町北 1751	古墳（後～終）
189	愛宕神社古墳	古墳	栗崎町上平	古墳（後～終？）
190	六地蔵寺古墳	古墳	六反田町薄内	弥生・古墳（後）
191	小山古墳群	古墳群	大場町小山外	古墳（後～終？）
192	森戸古墳群	古墳群	森戸町大六天外	先土器・縄文（早～後）・古墳（前・後～終）
193	上平遺跡	集落跡	栗崎町上平	古墳・奈良・平安
194	長福寺古墳群	古墳群	塩崎町寺前	古墳（後～終？）
195	涸沼第古墳群	古墳群	大場町荻久保	古墳（後～終？）
196	下入野古墳群	古墳群	下入野町富士山	古墳（後～終）
197	善徳寺古墳	古墳	大串町仲道 2301	古墳（後～終？）
198	下入野西古墳群	古墳群	下入野町水走外	古墳（後～終？）
201	椿山館跡	城館跡	東前町金山外	中世
202	和平館跡	城館跡	栗崎町上平	中世
203	六反田広町遺跡	集落跡	六反田町広町 1334 外	古墳（前～中）
235	町付遺跡	集落跡	酒門町町付	古墳（前）・奈良・平安
236	仲通り貝塚	貝塚	谷田町下ノ内	縄文（前）
237	下ノ内遺跡	集落跡	谷田町下ノ内	縄文（晩）
239	中ノ割遺跡	集落跡	圷大野町天神脇	先土器・縄文土器（早～後）・奈良・平安
240	小仲根権現古墳	古墳	元石川町中ノ割 942 外	古墳（後～終？）
241	小仲根遺跡	集落跡	元石川町小仲根	縄文（中）・古墳（後）・平安
242	高原古墳群	古墳群	元石川町小仲根	奈良・平安・近世
243	小山遺跡	集落跡	大場町高原・狐塚	縄文（中～後）
244	諏訪前遺跡	集落跡	大場町仲原・天神	縄文・古墳・奈良・平安
245	沢幡遺跡	集落跡	大場町諏訪前 455 外	縄文・奈良・平安
246	梶内遺跡	集落跡	大場町沢幡 936 外	先土器・古墳（後）・奈良・平安
			大串町梶内	古墳（後）・奈良・平安・近世
247	高原遺跡	集落跡	大串町高原・後原	縄文・弥生（後）・古墳・奈良・平安・中世・近世
248	北屋敷遺跡	集落跡	大串町北屋敷 744-1 外	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
249	北屋敷古墳群	古墳群	大串町北屋敷 774-1 外	縄文（早～中）・弥生（後）・古墳（中～後）・奈良・平安・中世・近世
250	六反田古墳群	古墳群	百合が丘町	古墳
251	伊豆屋敷跡	城館跡	栗崎町宿	古墳（後）・奈良・平安・中世
252	上野遺跡	集落跡	栗崎町上野	奈良・平安
253	仏性寺古墳	古墳	栗崎町上野 1985	古墳（後～終？）
254	フジヤマ古墳	古墳	栗崎町新屋 1612	古墳（後～終？）
255	藤元遺跡	集落跡	栗崎町藤元	古墳
256	諏訪神社古墳	古墳	栗崎町諏訪下	古墳（後～終？）
257	千勝神社古墳	古墳	栗崎町打越 2398	古墳（後～終？）
258	打越遺跡	集落跡	栗崎町打越	奈良・平安
259	東前原遺跡	集落跡	東前町原	古墳・奈良・平安
260	住吉神社古墳	古墳	東前町金山	古墳（後～終？）
261	大串原館跡	城館跡	大串町原	中世
262	大串原遺跡	集落跡	大串町原	縄文（前）・奈良・平安
263	宮原遺跡	集落跡	大串町宮前	奈良・平安
264	東畑古墳	古墳	大串町東畑	古墳
267	天神山古墳	古墳	大場町天神山	弥生（後）・古墳（前）
268	久保山館跡	城館跡	森戸町久保山・塙	中世
269	西ノ崎遺跡	集落跡	下入野町西ノ崎	古墳・奈良・平安
270	下入野富士山遺跡	集落跡	下入野富士山	古墳・平安
279	道西遺跡	集落跡	六反田町道西	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安
280	涸沼川河床遺跡	包蔵地	平戸町	縄文（早～晩）・弥生（中）・近世
289	元石川町大谷原遺跡	集落跡	元石川町大谷原	先土器・縄文（早・後～晩）・古（後）・奈良・平安・近世

（井上・蓼沼・仁平・根本　1999）に加筆・改変

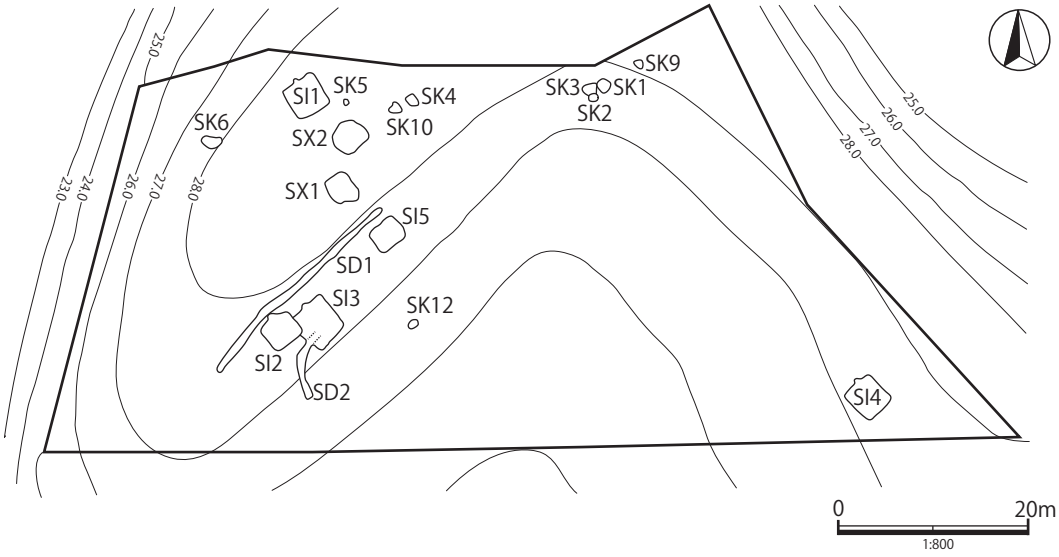
されているが，諏訪前遺跡から４㎞以上とやや距離があり直接的な関係は薄いと思われる。近傍では，南西，谷津を隔てて所在する森戸古墳群では遺構外から早期貝殻条痕文系土器が出土している。縄文中期としては前述の薬王院東遺跡の他，雁沢遺跡，薄内遺跡，小仲根遺跡，下畑遺跡などで確認されている。今回の調査では 33 点の縄文土器の出土を見たが，これに伴う遺構は確認されず，上述の遺跡に関連する可能性もあるが，不明であると言わざるを得ない。

７世紀後葉から８世紀前葉については，概ね奈良時代に相当するものとして周辺遺跡を概観したい。諏訪前遺跡近隣における奈良時代の遺跡としては，大鋸町遺跡，薬王院東遺跡，町付遺跡，中ノ割遺跡，小仲根遺跡，東組遺跡，道西遺跡，大串遺跡，梶内遺跡，沢幡遺跡等が挙げられる。このうち，今回の調査地点と同時期の物としては梶内遺跡や大串遺跡にその例を見ることができる。本地点と同じ台地上に位置しており注意される。

今回の調査範囲は狭小であり，また諏訪前遺跡自体の調査もあまり進展していないことから，その性格を解明することは困難であるが，諏訪前遺跡を含め複数の遺跡が当台地縁辺上に密集している状況から，長期間にわたる，人々の活発な活動の痕跡が伺えるのではないだろうか。　（岩崎）

２－３　諏訪前遺跡における既往の調査

諏訪前遺跡で最初に発掘調査が行われたのは，北関東自動車道東水戸道路敷設に伴い，平成２（1990）年～平成３（1991）年にかけて財団法人茨城県教育財団により実施された第１地点の発掘調査である。同調査では，奈良・平安時代の竪穴建物跡５軒，竪穴遺構２基，土坑 10 基（うち１基は古墳時代中期ヵ），近世以降とみられる溝２条が検出された。奈良・平安時代の竪穴建物跡は，出土遺物や主軸方位等から７世紀末～８世紀前葉，８世紀後葉，９世紀前葉に細分され，土師器や須恵器等が出土している。注目される遺物としては，９世紀前葉に帰属する第２号竪穴建物から出土した鉄鏃が挙げられる。　（米川）



第３図　諏訪前遺跡（第１地点）遺構配置図（１：800）
（梶山 1993 の第 36 図をデジタルトレース）

第３章　調査の方法と成果

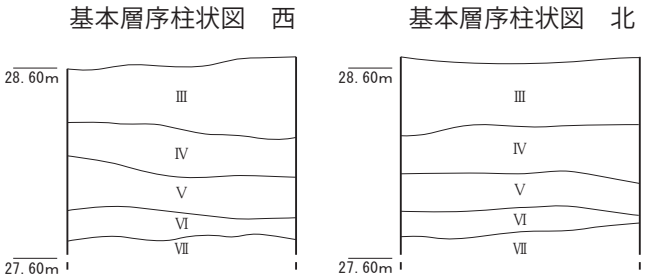
３－１　調査の方法

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。調査にあたっては重機を用いて表土を除去した後，主として人力で遺構確認面までの掘り下げを行った。遺構内出土遺物については，原則として光波測量機を用いて３次元記録を実施した。また，遺構についてはデジタルカメラによる写真測量と手実測作業を併用した。また，写真撮影にあたっては35㎜モノクロフィルム，35㎜カラーリバーサルフィルム，デジタルカメラ（1280 万画素）を併用し，適宜，撮影を行った。

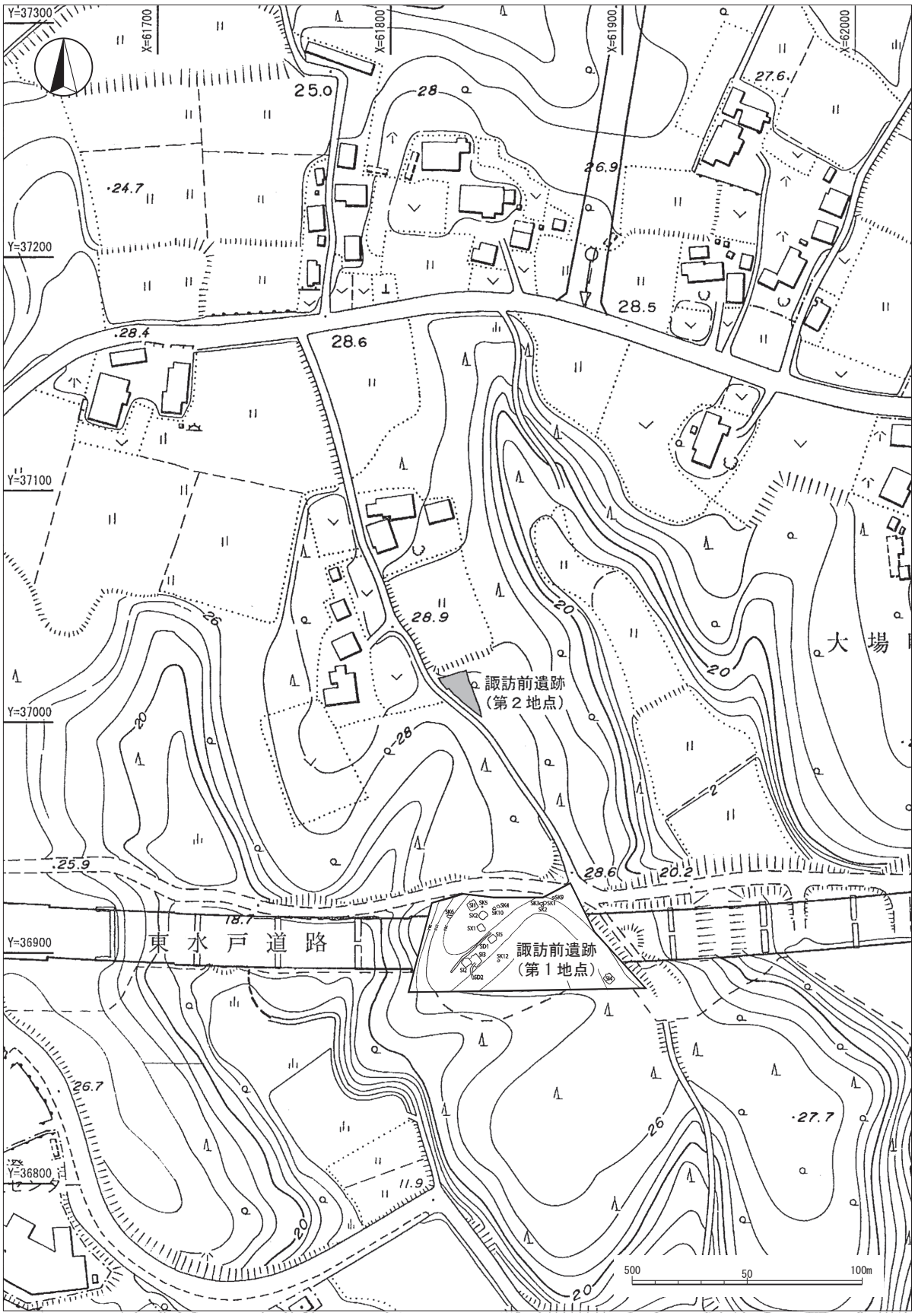
３－２　基本層序

調査区北西部に基本層序観察用のトレンチを 1.3 × 1.3 m幅で設定，北壁と西壁の２面において観察を行った。基本層序の概要は以下の通りである。また土層は南北方向では下降する向きが見られ，現地形と概ね合致している。

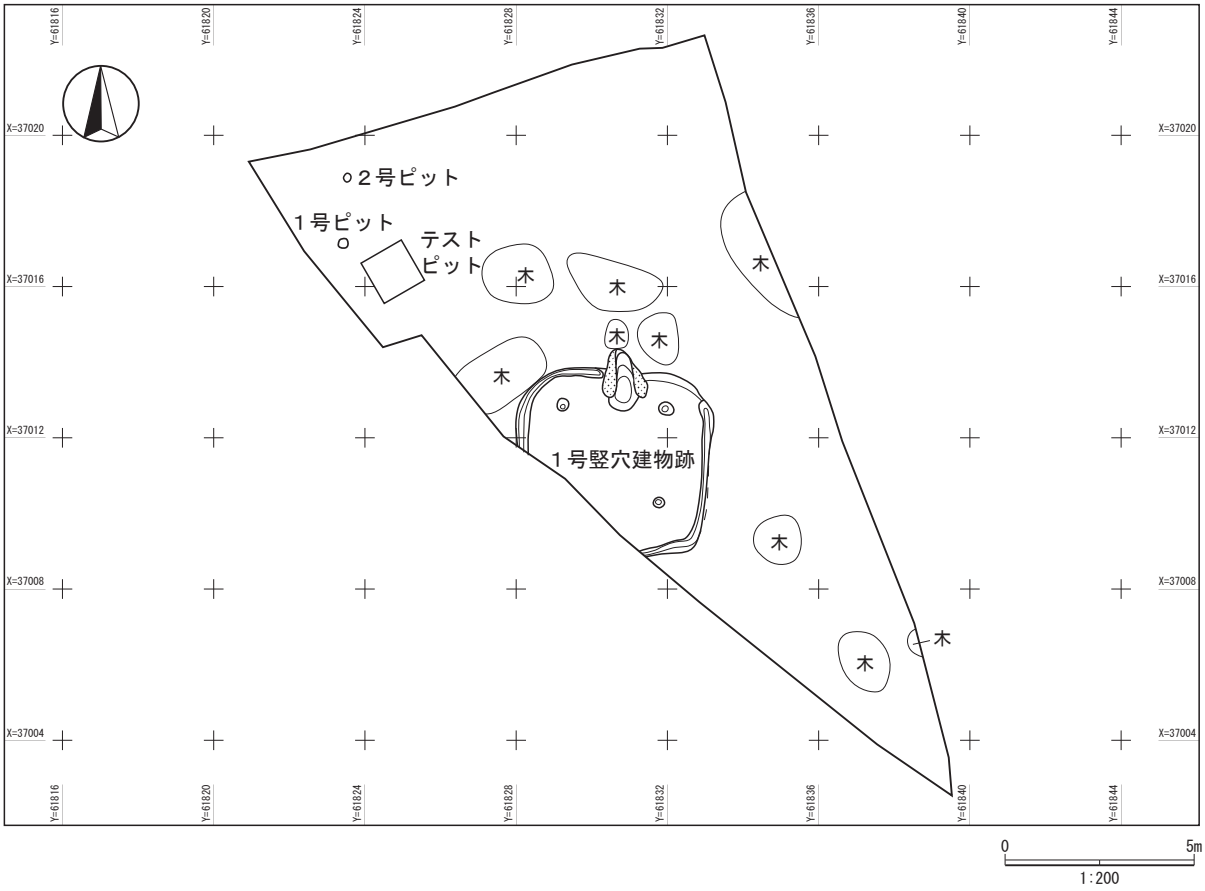
Ⅲ　7.5YR6/8　橙色土　　ローム土。黒色粒、赤色粒微量混入。粘性を持ち、ややしまる。
Ⅳ　7.5YR5/6　明褐色土　　ローム土。黒色粒、赤色粒微量混入。粘性を持ち、しまる。
Ⅴ　7.5YR5/4　にぶい褐色土　ローム土。黒色粒、赤色粒微量混入。粘性を欠くが、しまる。
Ⅵ　10YR5/6　黄褐色土　　ローム土鹿沼土を多量に含む（混在層）。粘性を持ち、しまる。
Ⅶ　10YR7/6　黄橙色土　　鹿沼軽石純層　粘性を欠くが、しまる。



第４図　基本層序柱状図（１：40）



第５図　調査区の位置（１：2,500）



第６図　調査区方眼図（１：200）

３－３　遺構

調査は南北約 21 m，東西約 12 mの三角形の敷地を範囲とし実施した。調査区は八つ手状の台地の上に位置し，東と南は谷に面する。

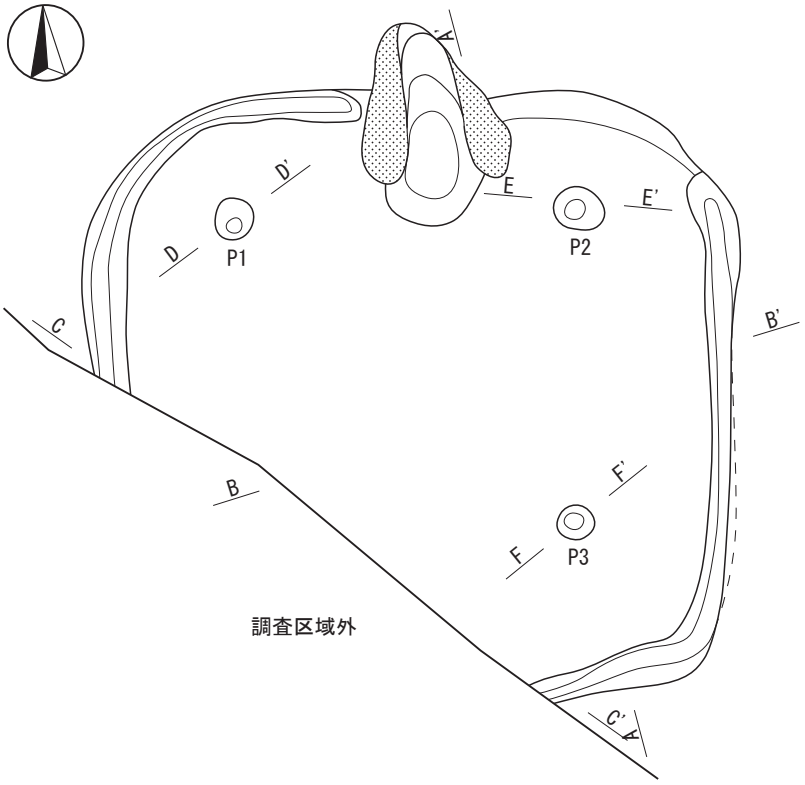
今回の調査では竪穴建物跡１軒とピット２基が検出された。

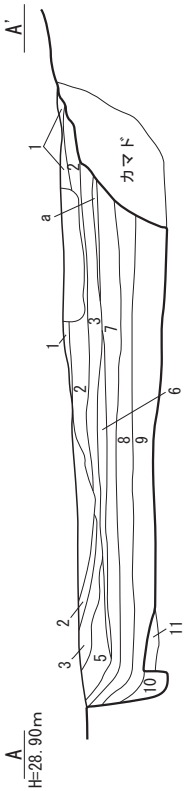
１号竪穴建物跡（第６～９図，図版２・３）

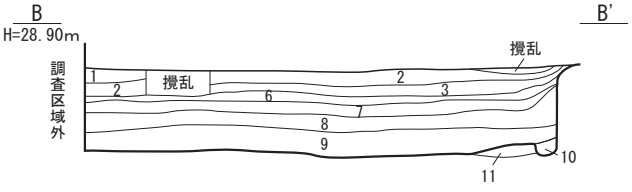
建物跡は調査区の中央部に位置し，南西角部を調査区外に有する。遺構平面形状は南北軸長5.35m，東西軸長5.20m の方形を呈し，軸方向N－6°－Eで，ほぼ南北方向と一致する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり，床面から遺構確認面までの高さは0.67m を測る。壁の直下には周溝がほぼ全周するが，カマドの直前で途切れている。カマドは北壁に位置し，中心軸よりやや東寄りに配置される。カマドの軸は建物の中心軸に比しやや斜行していた。カマド煙道部は急な立ち上がりをみせ，奥行きは浅い。床面はほぼ平坦でロームに直接構築されていた。残存状況は植栽痕などによりやや破壊されているものの概ね良好であった。

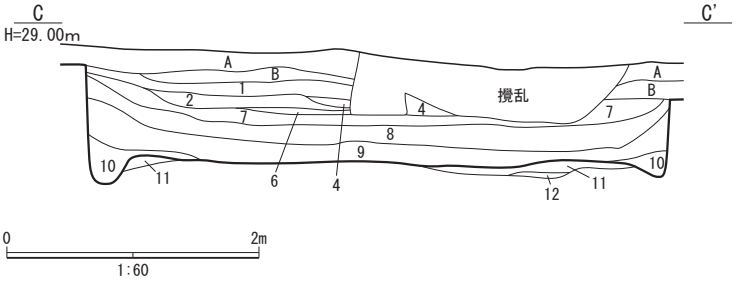
柱穴は３基のピットが確認されており，それぞれ建物跡の隅に近い位置に配置される。残りの１基については調査区外にあるものと思われ，上屋は４本柱穴によるものと推測される。入口施設，貯蔵穴等は確認されなかった。掘り方は建物の四つ角部が掘り込まれる形状であった。

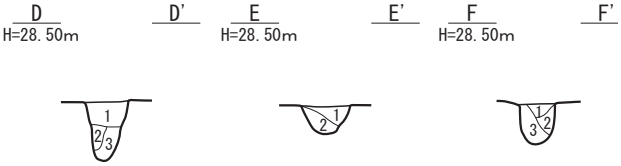
また，やや注意を引く点としては，覆土中，確認面から0.18m の地点で硬く締まった貼床状の層











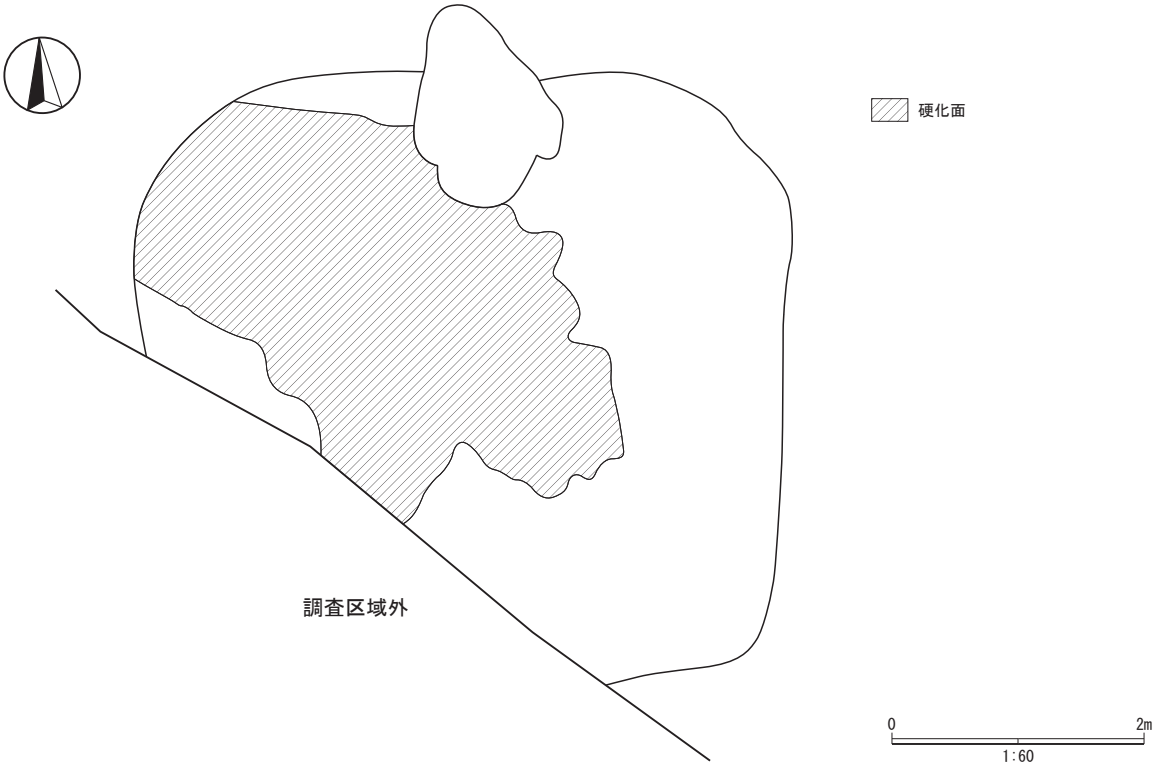
SI01 P1
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒（φ1～2㎜）、焼土粒（1～2㎜）、炭化物（φ1～2㎜）少量。粘性を持ちややしまる。
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒（φ1～2㎜）少量。粘性を持ちややしまる。
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒（φ1～2㎜）少量、ロームブロック（φ2～3㎜）、焼土ブロック（3～4㎜）、炭化物（φ3～4㎜）微量。粘性を持ちしまる。

SI01 P2
1　7.5YR4/3 褐色土　ロームブロック（φ3～4㎜）、焼土ブロック（3～4㎜）、炭化物（φ3～4㎜）少量混入。粘性を持ちしまる。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒（φ2～3㎜）、炭化物（2～3㎜）少量混入。粘性を持ちしまる。

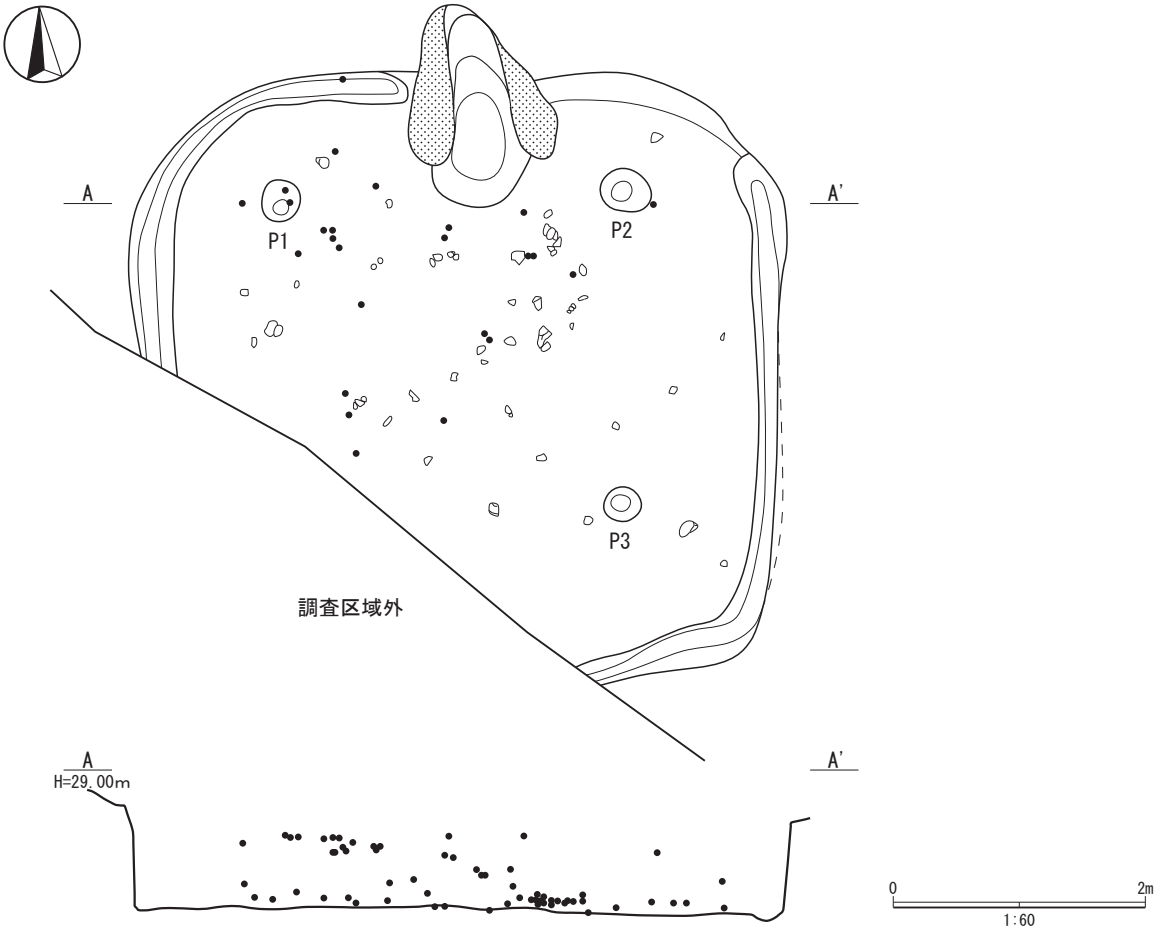
SI01 P3
1　10YR3/4 暗褐色土　炭化物（φ2～4㎜）、焼土粒（φ1～2㎜）混入。粘性を持ちややしまる。
2　7.5YR4/6 褐色土　ローム主体。ロームブロック（φ2～3㎜）微量混入。粘性を持ちややしまる。
3　7.5YR4/6 褐色土　7.5YR4/6　ローム主体。ロームブロック（φ3～4㎜）微量混入。粘性を持ちしまる。

SI01
A　10YR3/4 暗褐色土　表土上層。木根，植物根が多量混入。しまり，粘性を欠く。
B　10YR4/4 褐色土　表土下層。炭化物（φ2～3㎜）微量混入。粘性をやや持ち，ややしまる。
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒，焼土粒（φ1㎜以下）微量混入。粘性をわずかに持ち，しまる。
2　10YR3/4 暗褐色土　ロームを斑に含む。ローム粒，炭化粒，焼土粒，焼土ブロック（φ5㎜）微量混入。粘性を持ち，しまる。
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒，炭化粒，焼土粒，焼土ブロック（φ5㎜）微量混入。粘性に欠けるが，しまる。
4　10YR4/4 褐色土　ローム主体。焼土粒微量，ロームブロック多量混入。粘性を持ち，しまる。
5　10YR4/4 褐色土　ローム主体。粘性を持ち，ややしまる。
6　10YR3/2 黒褐色土　ローム粒，ロームブロック（φ5㎜），焼土粒，焼土ブロック（φ5㎜），炭化粒少量混入。粘性を持ち，しまる。　※内包物は7層とほぼ同じだが，硬くしまる。
7　10YR3/2 黒褐色土　ローム粒，ロームブロック（φ5㎜），焼土粒，焼土ブロック（φ5㎜），炭化粒少量混入。粘性をやや持ち，ややしまる。
8　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック（φ3～4㎜）焼土ブロック（φ2～3㎜），炭化物（φ2～5㎜）少量混入。粘性を持ち，しまる。
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒，ロームブロック（φ3～4㎜），炭化物（φ5～10㎜）少量混入。粘性を持ち，ややしまる。
10　10YR2/3 黒褐色土　ローム主体。ロームブロック（φ3～5㎜）少量混入。粘性を持ち，ややしまる。
11　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少量，焼土粒，炭化物（φ3～45㎜）微量混入。粘性を持ち，しまる。
12　5YR3/4 暗赤褐色土　焼土粒，炭化物（φ2～3㎜）少量混入。粘性をやや持ち，しまる。　※被熱による硬化いちじるしい。

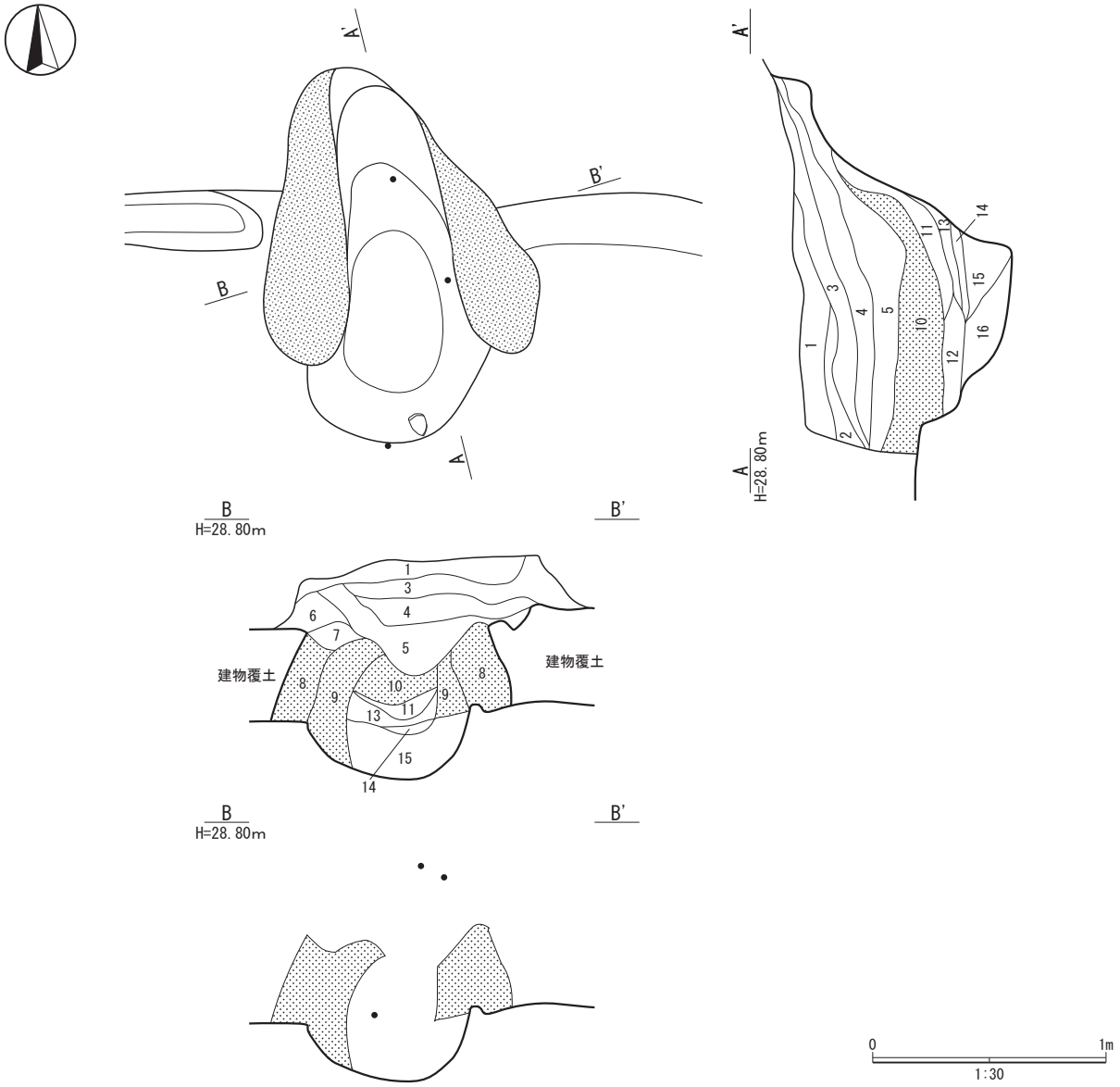
第7図　1号竪穴建物跡（1：60）



第８図　１号竪穴建物跡貼床（１：60）



第９図　１号竪穴建物跡遺物出土状況（１：60）



SI01 カマド

1	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒，炭化粒，焼土粒微量混入。僅かに粘性を持ち，しまる。
2	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒，焼土粒，焼土ブロック（φ５㎜）微量，炭化粒微量混入。粘性を持ち，しまる。　※少量のロームを斑に含む。
3	7.5YR3/4 暗褐色土	ローム粒，砂粒少量，炭化粒，焼土粒微量混入。やや粘性を持ち，しまる。
4	7.5YR3/3 暗褐色土	ローム粒，炭化粒，焼土粒微量混入。やや粘性を持ち，しまる。
5	7.5YR3/4 暗褐色土	ローム粒，炭化物（φ３～４㎜）焼土粒少量，焼土ブロック（φ３～４㎜）微量混入。やや粘性を持ち，しまる。
6	7.5YR3/2 黒褐色土	ローム粒，ロームブロック（φ10㎜），炭化粒，焼土粒少量混入。やや粘性を持ち，しまる。
7	7.5YR3/3 暗褐色土	ローム粒，炭化粒，焼土粒微量，混入。粘性を持ち，しまる。
8	10YR5/4 にぶい黄褐色土	粘土を主体とし，焼土ブロック（φ２～３㎜），炭化物（φ２～３㎜），焼土ブロック（φ２～３㎜）微量混入。粘性を持ち，しまる。
9	7.5YR4/3 褐色土	粘土主体。炭化物（φ２～３㎜）やや多量に混入。粘性を持ち，ややしまる。　※熱を受ける
10	7.5YR4/3 褐色土	ローム粒，焼土ブロック（φ３～４㎜）微量，砂粒やや多量混入。粘性を持ち，しまる。　※粘性が特に強く硬化いちじるしい。（カマド天井部崩落土）
11	5YR4/4 にぶい赤褐色土	焼土を主体。焼土ブロック（φ0.5 ～ 10㎜）少量，炭化粒（φ１～２㎜）微量。僅かに粘性を持ち，しまりを欠く。
12	7.5YR2/3 極暗褐色土	ローム粒，ロームブロック（φ３～５㎜），炭化物（φ３～５㎜），焼土粒微量，焼土ブロック（φ３～５㎜）混入。粘性を持ち，しまる。
13	5YR4/4 にぶい赤褐色土	焼土主体。焼土粒少量，炭化粒微量混入。やや粘性を持ち，しまる。
14	2.5YR4/8 赤褐色土	焼土主体。よく熱を受けている（火床面）。粘性を欠き，ややしまる。
15	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック（φ３～５㎜），砂粒多量，焼土粒，炭化粒少量混入。粘性を持ち，ややしまる。　※やや熱を受ける。
16	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック（φ３～５㎜）やや多量，やや粘性を持ち、ややしまる。　※やや熱を受ける。

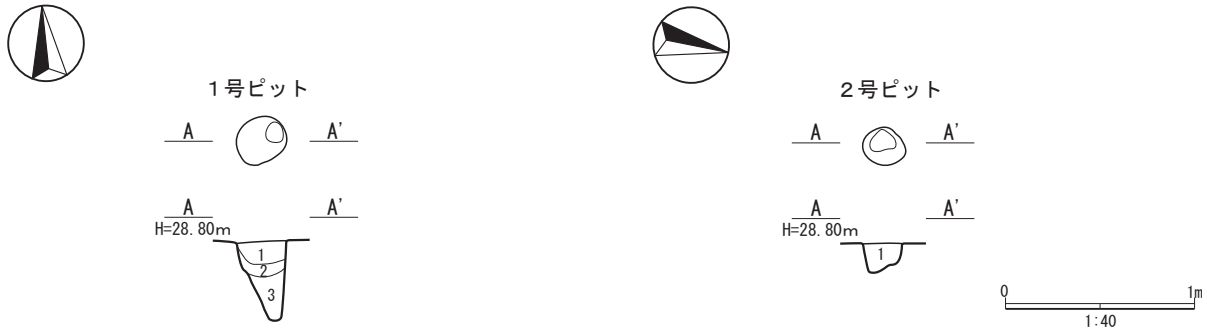
第 10 図　１号竪穴建物跡カマド（１：30）

が確認されており，建物跡北西側の大半に広がりを見せている。切り合いや重複・建替等は確認されず，その性格は不明である。また覆土内の内容物等の組成は直下の層と概ね同一であった。

竪穴建物跡出土遺物は須恵器，土師器を中心として 748 点，12,815.9 ｇであった。床面直下からは新治窯跡群産とみられる須恵器の蓋が出土しており，その技術的，形態的特徴から７世紀第４四半期の所産と考えられるが，他の遺物は概ね８世紀第１四半期に属しており，建物の廃絶はこの期間中に起こったと推測される。

ピット（第 10 図，図版１）

２基が確認された。遺跡の現況が竹を含む山林であり，規則性や遺物の出土も見られないことから，植栽痕の可能性も高いと思われるが，形状からピットに分類した。よって時期は不明である。



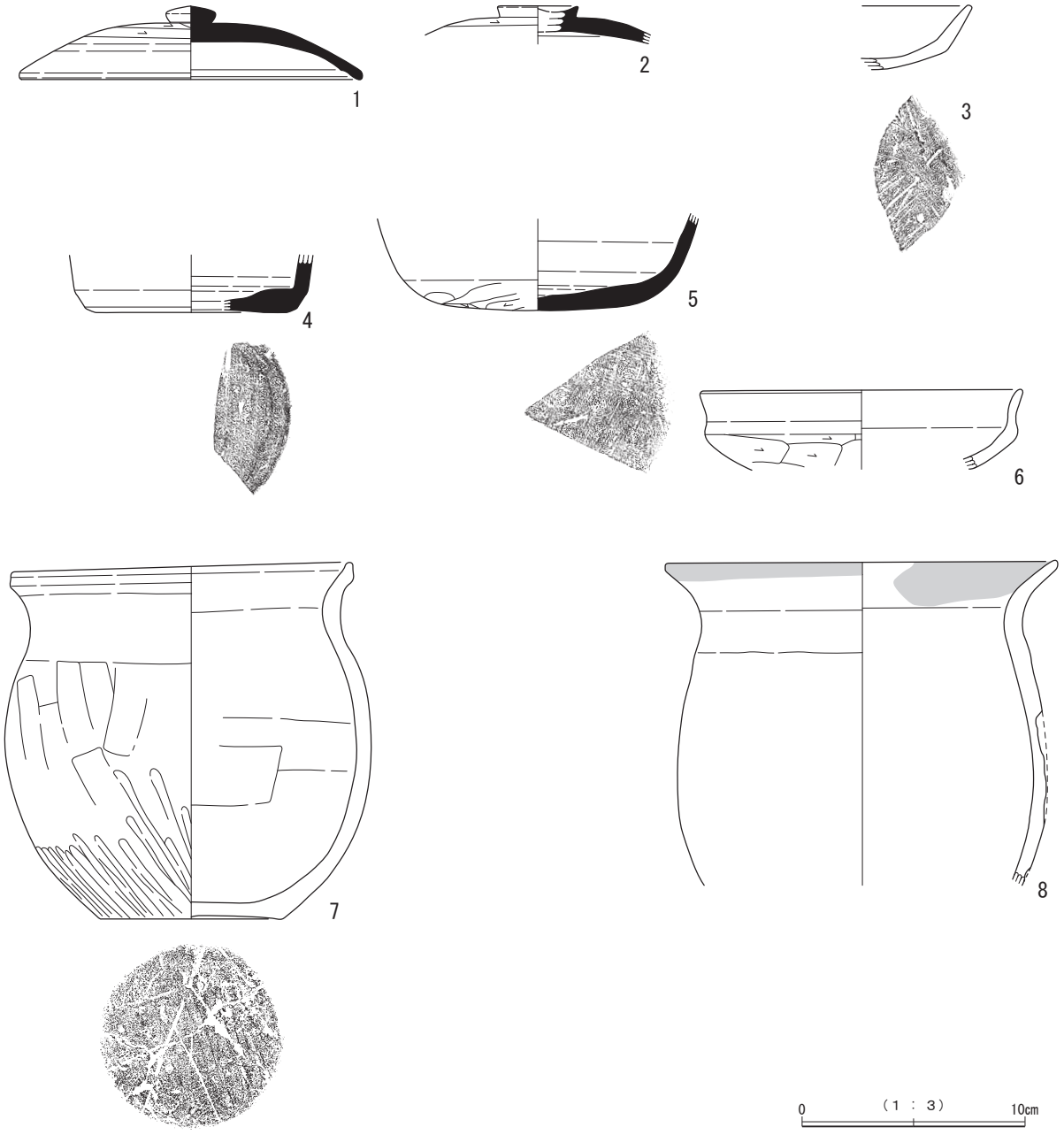
１号ピット SPA-A'
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒を少量，赤色粒・炭化粒を微量含む。やや粘性を持ち，しまる。
2　10YR3/4 暗褐色土　ロームを主体とするが，地山よりやや暗い。１の土が僅かに含まれる。粘性を持ち，しまる。
3　10YR3/3 暗褐色土　ロームブロック（φ５～ 10 ㎜）を少量，ローム粒をやや多量に含む。やや粘性を持ち，しまる。

２号ピット SPA-A'
1　10YR3/4 暗褐色土　炭化粒を少量含む。ロームが斑に含まれる。やや粘性を持ち，しまる。

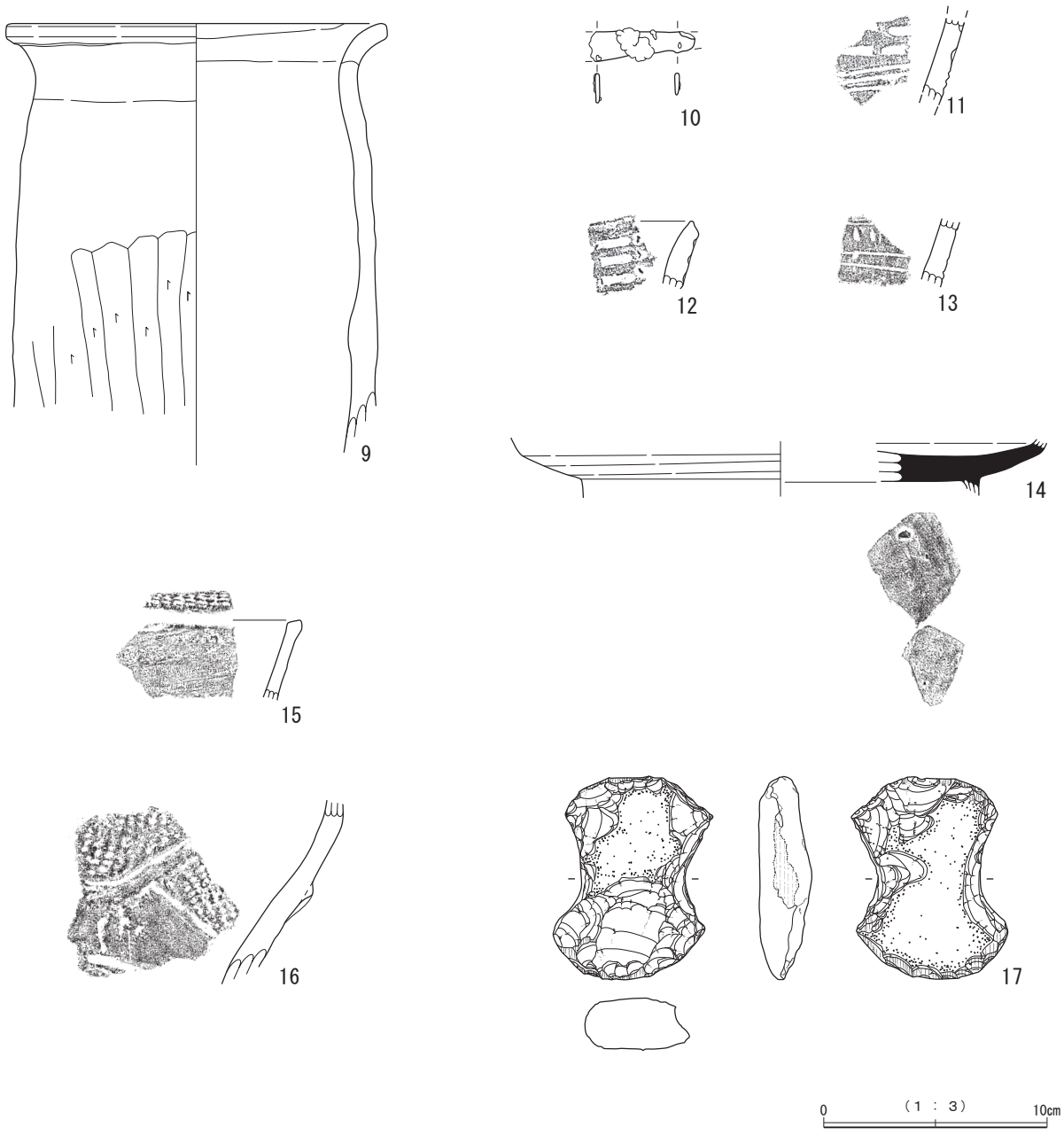
第 11 図　ピット（１：40）

３－４　遺物（第 11 ～ 12 図，第２・３表，図版４）

今回の調査地点からは７世紀末から８世紀前葉の須恵器，土師器，鉄製品などが遺物収納箱にして３箱分，817 点，13,913.5g が出土した。この内，竪穴建物内からは 748 点，12,815.9g が出土した。各器形，器種に拠る点数，重量は後述の一覧（第３表）に譲るが，主体となるのは土師器甕であり，重量換算で竪穴建物内出土遺物中 49.5％を占めた。須恵器類に関しては，顕著とは言えないまでも一定量が確認されており，遺構の性格を知る上で重要と思われる。また表土，及び流れ込みによると思われるが竪穴建物覆土中からは，砂岩製の分銅型打製石斧，加曾利Ｅ式土器，縄文早期に属すると思われる沈線文系の土器片が出土しており，周辺遺跡との関連性が注意される。



第 12 図　出土遺物（１）



第 13 図　出土遺物（2）

第２表　出土遺物観察表

図版番号	出土地点遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径〈推定口径〉（cm）	底径〈推定底径〉（cm）	器高〈残存高〉（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	SI01	須恵器	蓋	完形	100	(15.2)	−	3.3	摘部貼付け。僅かな稜状のかえりを持つ。天井部端折込無し。ロクロ成形天井部外面回転ヘラケズリ。	白色粒・チャート・石英・銀雲母・長石粒	不良	10YR7/3 にぶい黄橙色	新治窯跡群産。７Ｃ第３四半期。
2	SI01	須恵器	蓋	摘部～天井部	20	−	−	〈1.6〉	摘部貼付け。ロクロ成形天井部外面回転ヘラケズリ。	白色粒	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	内外面に黒色湧出物付着。
3	SI01	須恵器	坏	口縁部～底部	30	−	−	〈2.2〉	口縁部内外面回転ナデ。底部外面手持ちヘラケズリ（多方向）。内外面黒彩。	白色粒・銀雲母	良好	10YR6/2 灰黄褐色	新治窯跡群産。８Ｃ第１四半期か。
4	SI01	須恵器	坏	体部～底部	10	−	(9.6)	〈2.5〉	体部内外面回転ナデ。体部下端～底部回転ヘラケズリ。	白色粒・銀雲母・白色針状物質	良好	10YR6/2 灰黄褐色	木葉下窯跡群産。体部外面～底部に黒色物質付着。８Ｃ第１～２四半期。
5	SI01	須恵器	坏	口縁部～底部	30	−	(10.0)	〈4.0〉	口縁部は直立気味に立ち上がった後外反。体部内外面回転ナデ。体部下端～底部ヘラケズリ。	白色粒・石英・銀雲母・白色針状物質	良好	10YR6/1 褐灰色	
6	SI01	土師器	坏	口縁部～底部	40	(14.0)	−	〈3.5〉	口縁部直立気味。口縁内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	白色粒・赤色粒・白色針状物質	良好	7.5YR8/6 浅黄橙色	内外面に黒色湧出物付着。
7	SI01	土師器	甕	口縁部～底部	70	15.2	8.1	16.0	口縁部～胴部内外面ヨコナデ。胴部過半にミガキを加える。底部外面に木葉痕。	白色粒・黒色粒・石英・銀雲母	不良	10YR7/4 にぶい黄橙色	常総甕。８Ｃ第１四半期。
8	SI01	土師器	甕	口縁部～胴部	40	17.3	−	〈14.4〉	口縁部内外面に黒斑。口縁部～頸部ヨコナデ。	白色粒・石英・銀雲母・黒雲母	良好	5YR5/8 明赤褐色	黒色湧出物が見られる。
9	SI01	土師器	甕	口縁部～胴部	15	(17.0)	−	〈19.1〉	口縁部外反。口唇部は球状を呈する。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面下端に下～上方向のヘラケズリ。胴部内面は剥離が多い。	白色粒・黒色粒・石英・銀雲母	良好	10R8/4 浅黄橙色	８Ｃ第１四半期か。
10	SI01	鉄製品	刀子？		40	縦 1.3	横〈4.7〉	厚 0.2	全面を錆により覆われている。	−	−	−	
11	SI01	縄文土器	深鉢	胴部	細片	−	−	〈3.8〉	竹管状工具により右から左に端凹線を施す。その下位には沈線が３条横走する。内面は丁寧なナデ。	白色粒・石英・銀雲母	良好	10YR8/6 黄橙色	黒色湧出物が見られる。12 とは別個体だが、同モチーフと思われる。田戸下層。
12	SI01	縄文土器	深鉢	口縁部	細片	−	−	〈3.0〉	口縁部竹管状工具により左から右に端凹線を施す。	白色粒・石英・銀雲母	不良	10YR7/4 にぶい黄橙色	黒色湧出物が見られる。11 とは別個体だが、同モチーフと思われる。田戸下層。
13	SI01	縄文土器	深鉢	胴部	細片	−	−	〈3.0〉	横位の沈線と刺突文。	白色粒・チャート・銀雲母	良好	10YR7/6 明黄橙色	田戸下層
14	表土	須恵器	高台付坏	体部～底部	30	−	(17.4)	〈1.9〉	ロクロ成形。底部回転ヘラ切り。貼付高台。	白色粒・銀雲母	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	新治窯跡群産？内外面に黒色湧出物付着。
15	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	細片	−	−	〈3.5〉	口縁部内外面ヨコナデ。口唇部に縄状圧痕。	白色粒・銀雲母	良好	10YR8/4 浅黄橙色	口縁部外面に黒色付着物。田戸下層。
16	表土	縄文土器	深鉢	胴部	細片	−	−	〈8.0〉	単節 RL 横位を地紋とし、隆帯で区画する。隆帯脇は磨り消す	白色粒・石英・チャート・長石・銀雲母	良好	10YR6/4 にぶい黄橙色	加曾利ＥⅡ
17	表土	石製品	分銅型打製石斧			縦 9.0	横 6.8	厚 2.3	表裏面中央に摺痕。刃部は摩擦が激しい。表面に広く自然面を残す。	−	−	−	砂岩

第３表　遺物集計表

出土地点			1号竪穴建物跡		遺構外		総計	
出土遺物			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）
縄文時代	縄文土器	深鉢	31	451.3	2	31.1	33	482.4
	石製品	石器	24	2,204.4	1	172.7	25	2,377.1
古墳時代～奈良時代	土師器	甕	578	6,285.1	51	438.3	629	6,723.4
		坏	47	379.2	2	59.5	49	438.7
		壺	24	496.4			24	496.4
		台付甕	3	56.7			3	56.7
		蓋	5	21.5	1	3.2	6	24.7
		高台付坏						
		高盤						
	須恵器	甕	8	182.4	5	104.8	13	287.2
		坏	16	263.8	3	172.2	19	436.0
		壺						
		台付甕						
		蓋	5	175.3	1	4.8	6	180.1
		高台付坏			2	30.7	2	30.7
		高盤			1	80.3	1	80.3
	鉄製品		1	4.1			1	4.1
	石製品	礫	2	1,728.2			2	1,728.2
時期不明	鉄製品		2	91.3			2	91.3
	石製品	礫	2	476.2			2	476.2
総計			748	12,815.9	69	1,097.6	817	13,913.5

第４章　総括

本遺跡は東茨城台地上，八つ手状谷の突端部に位置し，現状は針葉樹林に覆われた山林である。調査区南側には東水戸道路の高架が横走しているものの，深い森に覆われた地形は，古代から変わらぬ風情を今も残している。

今回の調査では１軒の竪穴建物跡と２基のピットが確認されたが，竪穴建物跡については確認面からの覆土の堆積が66.8㎝と厚く，遺構の残存状況は概ね良好であった。遺物の組成を見れば，土師器甕類が総出土遺物中の48.7％を占め，以下は僅少ではあるが，須恵器坏類が3.4％，土師器坏類が3.6％で続く。また，須恵器蓋も複数個体確認されている。器種組成から遺構の性格を知るには出土遺物が少なく，復元しえない破片資料も多いことから，やや困難ではある。現在の立地などを考慮し，さらに想像を逞しくして炭焼き小屋といった，集落から独立，または集落の外縁部に位置する建築物ではないかと考えたいが，今回調査を実施した範囲内だけでは，その性格を十分に解き明かすことはできない。今後周辺の調査が進展し，当該地の性格がより明確になることを期待したい。　（岩崎）

引用・参考文献

梶山雅彦　1993『一般国道６号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ中ノ割遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢幡遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡』財団法人茨城県教育財団

佐々木義則　1995「木葉下窯跡群産坏ＡⅠの変化について－消費地における形態と調整技法の様相－」『婆良岐考古』第17号　婆良岐考古同人会

樫村宣行　1995『一般国道６号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ梶内遺跡』財団法人茨城県教育財団

赤井博之　佐々木義則　1996「新治窯跡群産須恵器ＡⅠの変化－消費地の様相－」『婆良岐考古』第18号　婆良岐考古同人会

赤井博之　1998「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究（１）～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『婆良岐考古』第20号　婆良岐考古同人会

齊藤 洋　新垣清貴　2005『大網町遺跡－グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市文化財調査報告第３集

佐々木藤雄　関口慶久　大橋生林 邦夫　2006『大鋸町遺跡（第３地点）－市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市埋蔵文化財調査報告第７集

佐々木義則　2007「常陸型甕の生産と流通－奈良時代以前の様相－」『婆良岐考古』第29号　婆良岐考古同人会

小川和博　大渕淳志　川口武彦　木本拳周　渥美賢吾　関口慶久　株式会社京都科学　2008『大串遺跡（第７地点）－介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－』水戸市埋蔵文化財調査報告第14集

川口武彦　色川順子　渥美賢吾　片平雅俊　2008『元石川大谷原遺跡－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市埋蔵文化財調査報告第18集

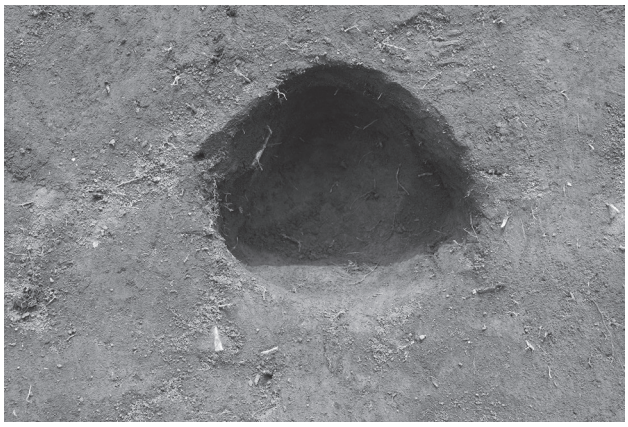
日沖剛史　石丸敦志　新垣清貴　渥美賢吾　川口武彦　色川順子　2008『薄内遺跡（第１地点）－移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』水戸市埋蔵文化財調査報告第20集

小林達雄編　2008『総覧　縄文土器－小林達雄先生古稀記念企画－』アム・プロモーション

写　真　図　版

調査区全景（南より）

1 号ピット完掘状況（東より）



2 号ピット完掘状況（東より）

調査区を望む（南より）

図版 2

1 号竪穴建物跡完掘状況（南より）

1 号竪穴建物跡遺物出土状況（1）（南より）

1 号竪穴建物跡遺物出土状況（2）（南より）

1 号竪穴建物跡遺物出土状況（3）（南より）

1 号竪穴建物跡カマド完掘状況（南より）

1 号竪穴建物跡土層断面（東より）

基本層序（東より）

基本層序（南より）

埋め戻し状況（南より）

作業風景（北より）

図版 4

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

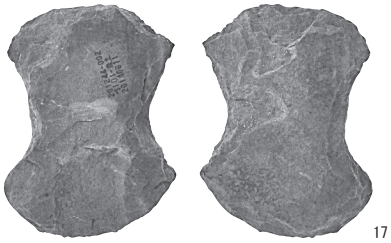
12

13

14

15

16


17

出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	すわまえいせき（だいにちてん）
書名	諏訪前遺跡（第２地点）
副書名	産業廃棄物中間処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第 64 集
編集者名	岩崎　岳彦
著者名	岩崎　岳彦　　米川　暢敬
編集機関	水戸市教育委員会
所在地	〒 310-8610　茨城県水戸市笠原町 978-5　☎ 029-306-8132
発行年月日	2014（平成 26）年 9 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′ ″	東経 °　′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
すわまえいせき 諏訪前遺跡	みとしおおばまちあざおやま 水戸市大場町字小山 443 番地 7，大場町字 すわまえ　ばんち 諏訪前 452 番地 1	08201	244	36° 19′ 54″	140° 31′ 19″	2014.6.10 ～ 2014.6.30	175.5 ㎡	産業廃棄物中間処理施設建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
諏訪前遺跡	集落跡	縄文時代	なし	土器，石器	今回の調査では，１軒の竪穴建物跡及び２基のピットが確認された。出土遺物は土師器甕を中心に坏，壺，須恵器坏，蓋などが確認されている。遺物の形状等から７世紀末から８世紀前葉の所産と見られる。竪穴建物跡は八つ手状の台地の突端部に位置し，単独での検出のため性格の解明が難しく，周辺の調査の進展が待たれる。
		古代	竪穴建物跡	須恵器，土師器	

項目	遺物の取り扱い
水洗い	・すべて行った。
注記	・インクジェットプリンターによる。遺跡番号・地点名・遺構名・遺物番号・取上げ日の順に注記した。 例）201244-022・SI01-№ 1 20140607
接合	・必要に応じて最小限行った。
実測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	・遺物台帳，図面台帳，写真台帳があり，検索が可能なように作成している。合計１冊（綴り）。
遺物保管方法	・出土遺物は，報告書使用と未使用に分け，遺物収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお，未使用分については種別ごとに分類，収納してある。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第１集	**台渡里廃寺跡**―範囲確認調査報告書―	2005 年３月発行
第２集	**台渡里廃寺跡** ―市道常磐 17 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（１）―	2005 年４月発行
第３集	**大鋸町遺跡** ―グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2005 年８月発行
第４集	**台渡里廃寺跡** ―市道常磐 17 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（２）―	2006 年３月発行
第５集	**台渡里遺跡**―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2006 年３月発行
第６集	**吉田古墳Ⅰ**―史跡整備計画に伴う吉田古墳群第３次調査報告書―	2006 年３月発行
第７集	**大鋸町遺跡（第３地点）** ―市道浜田 207 号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2006 年３月発行
第８集	**坏遺跡（第３地点）** ―ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2007 年３月発行
第９集	**坏遺跡（第４地点）** ―プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2007 年３月発行
第 10 集	**吉田古墳Ⅱ** ―史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の第３次発掘調査報告書―	2007 年３月発行
第 11 集	**平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書**	2007 年３月発行
第 12 集	**アラヤ遺跡（第２地点）** ―市道常磐 10 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2007 年３月発行
第 13 集	**米沢町遺跡（第５地点）** ―住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2007 年３月発行
第 14 集	**大串遺跡（第７地点）** ―介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年３月発行
第 15 集	**台渡里遺跡（第 39 次調査）** ―公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年３月発行
第 16 集	**渡里町遺跡（第５地点）** ―市道常磐 31 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年６月発行
第 17 集	**渡里町遺跡（第６地点）** ―市道常磐 34，275 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年６月発行
第 18 集	**薄内遺跡**―移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年８月発行
第 19 集	**堀遺跡（第９地点）**―宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年９月発行
第 20 集	**元石川大谷原遺跡**―宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2008 年12月発行
第 21 集	**台渡里１**―平成 18 年度長者山地区範囲確認調査概報―	2009 年３月発行
第 22 集	**平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書**	2009 年３月発行
第 23 集	**吉田古墳Ⅲ** ―史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の第４・５次発掘調査報告書―	2009 年３月発行
第 24 集	**町村遺跡（第１地点）**―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2009 年３月発行
第 25 集	**東組遺跡（第１地点）**―物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―	2009 年３月発行

第 26 集　**荷鞍坂遺跡（第１地点）**
—コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年３月発行

第 27 集　**大鋸町遺跡（第８地点）**—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年３月発行

第 28 集　**雁沢遺跡（第１地点）**—工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年３月発行

第 29 集　**渡里町遺跡（第７地点）**
—市道常磐 23，31，307 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年６月発行

第 30 集　**台渡里２**
—市道常磐 283 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 51 次）—　2009 年６月発行

第 31 集　**若林遺跡（第１地点）**—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年８月発行

第 32 集　**堀遺跡（第 16 地点第１次調査）**
—市道渡里 48 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（１）—　2009 年10月発行

第 33 集　**堀遺跡（第 18 地点）**
—市道渡里 31，41 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年11月発行

第 34 集　**堀遺跡（第 17 地点）**
—市道渡里 35 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年12月発行

水戸城跡　三の丸土塁および堀の復旧作業に伴う工事・調査報告書　2006 年９月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告第 64 集

諏訪前遺跡
（第２地点）

－産業廃棄物中間処理施設建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷　平成 26 年９月 30 日
発行　平成 26 年９月 30 日

編　集　株式会社東京航業研究所
発　行　水戸市教育委員会
　　平和建設株式会社
印　刷　関東図書株式会社
　　〒 336-0021
　　埼玉県さいたま市南区別所３-1-10
　　TEL 048-862-2901